防水ジャーナル

ROOFING / SIDING / INSULATION / RENEWAL

2022
4
No.605

特集1
防水層の品質を左右する下地の在り方

特集2
屋上防水を断熱改修する利点

THE BOUSUI JOURNAL

改修のツボ 考 No.118

読み書きを誤るロクでなし

㈲鈴木哲夫設計事務所 代表取締役　鈴木 哲夫

建築の専門用語には，一般的な読みとは少し異なる用語がある。中でも，よく使われる漢字で「陸」がある。「不陸」「陸屋根」「陸墨」は，現場でなじみ深い用語であるが，これらをどう読むのか聞いてみると，「不陸」は「ふりく」，「陸屋根」は「りくやね」，「陸墨」は「りくずみ」という読み方をする人が随分と多い。残念ながらすべて誤りだ。建築の専門技術者が当たり前のように「陸屋根」を「りくやね」と読んでいる姿を見ると，くしゃみが出そうになる。

「陸」は，平らで凹凸がない地面や床などの状態を指している。このことから，建築で使う「不陸」は，歪みや凹凸のある状態を指し，「ふろく」と読むのが正しい。建築用語で使う「陸」は「ろく」と呼んで正解だ。

ちなみに，よろしくない性格や役に立たない者を指す言葉である，「ろくでなし」「ろくでもない」の「ろく」を漢字にすると「陸」になる。そもそも，「ろくでなし」の「ろく」の語源は何だろうかと調べてみると，どうも人（雑役）が輿を担いでいた時代の話であるらしい。輿を担いだり，牽く役目が人から６尺の車輪に変化し，その関係で雑役・人足＝６尺とイメージが結びついた。ここから，役に立つ者は「ろくしゃく」で，つまり，ろくしゃくでない者は「役に立たない者」を指すようになった。そしてさらに，「役立たず」から「歪みがある」「凹凸がある」状態を漢語の六尺（りくしゃく）から「六尺＝陸尺（ろくしゃく）でない」「陸（ろく）でない」に変化したようである。

ほかにも読み間違いやすい用語で，住宅の数を示す戸数がある。「○○戸」を「○○と」，「住戸」を「じゅうと」と言う人が意外と多い。これは，「○○こ」であり「じゅうこ」が正しい。

最近はほとんど見かけないが，面白い漢字に「仝」がある。これを読める若い人には拍手を送りたい。筆者が駆け出しの頃には，仕上表や見積書にこの漢字が宛てられていた。手書きの時代だからである。正解は，「同」（どう）であり，同の古字である。一覧表などで「上と同じ」とする場合に「仝上（どうじょう）＝同上」と表記されていた。

数を表記するときも，実は原則的な使い方が示されている。「○ヵ所」「○ヵ月」と記載していることがよくあるが，公用文の作成要領では，「○か所」「○か月」と平仮名表記することになっており，「ヵ」や「ヶ」は使わないことになっている。また，原則として縦書きの場合は，「箇」の漢字を使うことになっている。ちなみに「ヶ」は，漢字の「箇」の竹冠の左側だけを抜き取って記載した略記である。

漢字と平仮名の表記は，一筋縄ではいかない。表にごく一部を抜粋したが，興味があれば2010年11月30日内閣訓令第１号「公用文における漢字使用等について」などを参照されたい。

表　業務で使う漢字と平仮名の表記
（2010年11月30日内閣訓令第１号などを参考抜粋）

以下の接続詞は原則平仮名表記
あるいは（×或いは），したがって（×従って），ただし（×但し），なお（×尚～，また（×又）
以下，四つの接続詞は漢字表記
又は，若しくは，及び，並びに
送り仮名の原則
打合せ，置場，切替え，ただし書，立会い，問合せ，取替え，取付け，取付（工事），取扱い（名詞），取り扱う（動詞），張り替え，引渡し，見積り，見積（書），申込（書），見取図
2010年12月に常用として使えることになった漢字（抜粋）
瓦，釜，巾，勾，痕，貼，剥，埋

※媒体や書式によってこれらは変わる場合がある